



プロジェクト名称

## 笑顔のまち なこそ復興プロジェクト

### プロジェクト活動概要

本プロジェクトは福島県いわき市勿来地区を対象としている。勿来地区は、東日本大震災による地震と津波の被害に加えて、原発事故による被害とその原発事故による移転者がいるなど複雑な状況が絡みあっている。震災から 7 年が経ち、住民同士によるコミュニティ形成といった目には見えない部分（ソフト面）の復興はまだ終わっていない。私達はこの部分に着目し、ソフト面の復興を早く進めていけるような活動を行っていく。

### プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① 私たちが主体となった復興公営住宅完成前の既存住民と避難住民のコミュニティ形成  
「くぼたんけん」、「バスツアー」の二つの交流イベントを行い、70人の参加者を集め、参加者にアンケートを取る。くぼたんけんでは、既存住民と避難住民の両住民の総数のうち 70%以上の参加者が交流できることを目標とする。バスツアーでは避難住民同士の交流の総数のうち 70%以上が交流できることを目標とする。
- ② 「なこそ 未来マップ」や、「くぼたお散歩マップ」による地域に根付く成果づくり  
「なこそ 未来マップ」、「くぼたお散歩マップ」を作成し、それぞれ 2000 枚以上配布する。
- ③ 笑顔の架け橋プログラムによる情報発信  
Twitter、Facebook のフォロワーを 200 人以上にし、新たなつながりを形成していく。  
団体ホームページの閲覧数を 2000 人以上とする。

### 目標に対する進捗

- ① 1 月 21 日（日）に「復興応援バスツアー」を実施した。参加者は勿来地区の復興公営住宅に入居する方々 10 名とその他 10 名の合計 20 名であった。アンケートでは、他の参加者と交流が深まったと回答した人が 80%であった。
- ② 現地調査やヒアリング調査を行い、各商店街の方々と協働でマップを完成することが出来た。  
「なこそ 未来マップ」では、植田駅前を対象に第 1 版を作成し、1000 部配布を行った。  
「くぼたお散歩マップ」では、3000 部の印刷が終了し、復興公営住宅の入居予定者に配布した。
- ③ Twitter と Facebook のフォロワーが約 150 人に到達し、ホームページの閲覧数が約 1800 人に到達した。これらのツールを活用し、イベント開催のための繋がりを構築することができた。



図 1 : くぼたお散歩マップ (表)



図 2 : くぼたお散歩マップ (裏)



## 「んだ！勿来さ行くべ！！」勿来&双葉復興応援バスツアー

2018年3月に復興公営住宅の入居が開始される。それに伴い、避難者である双葉の住民の方に、避難先である勿来地区を知ってもらうことを目的として、バスツアーを実施した。この活動は、私たちにとっても初の試みであり、避難者が入居する復興公営住宅、勿来地区の観光名所である勿来の関、いわき・ら・ら・ミュウを回った。

復興公営住宅では、実際に建設中の現場の中に入れてもらい、福島県住宅建築課やUR都市機構の担当職員から説明を受けた。説明を聞いた参加者からは、入居後の生活についての質問があり、新生活に対する不安を解消でき、とても満足な様子であった。(写真1、2)

勿来の関では、バスツアーと同日開催で行った「かるたんか交流会」というイベントに参加し、勿来の方々との交流・双葉町の方々との交流を図った。このかるたんか交流会では、世代・性別など関係なく、真剣にかるたで競い楽しむ姿が見て取れた。交流会を通して世代を超えた会話が生まれ、温かみのある雰囲気を感じ取れた。(写真3)

最終目的地、いわき・ら・ら・ミュウは、新鮮な海産物が楽しめる観光物産センターである。ここでは多くの参加者がお土産を購入しており、あまり来ることのできない場所での買い物という機会を皆楽しんでいるようだった。

全体を通して、想定していた参加者数には届かなかったが、当日参加していただいた方々はとても満足して下さったため、私たち学生も「やりがいを感じれるイベント」であった。今後は参加者数を増やすために、内容をよりわかりやすく魅力的な企画にするなど改良を加えていく必要性を実感した。



写真1：当日のバス



写真2：復興公営住宅



写真3：かるたんか交流会

## 未来マップの作成

### 1. 未来マップとは

「植田商店街周辺を対象として作成したお散歩グルメマップ」と「東日本大震災によって被災した岩間地区・小浜地区の復興の様子と窪田の復興公営住宅の進捗状況、自分たちの団体やNPOの活動を載せた復興マップ」を合わせたものである。

目的は、「地域住民の方や宿泊客がマップを使って商店街の店舗の魅力に気づき、商店街を利用することで植田のまちを活性化させること」・「未来マップを日常的に使うことで、勿来地区での復興活動について興味を持ってもらい復興の意識を高めること」の2つである。

### 2. マップ完成までの流れ

マップを作成するにあたり、2017年8月1日から現地調査と植田商店会との会議を各4回実施した。現地調査では、「未来マップに掲載する店舗への取材」や「植田商店会の店舗等の確認」などを実施し、植田商店街との会議では、「未来マップの修正」・「未来マップの発行部数、配置場所の確認」等の細かい調整を行った。

2月上旬に第1版、2月下旬に第2版を完成させ、第1版、第2版ともに1000部ずつ印刷をした。また、2月に第1版を配布し、第2版は5月に配布予定である。



図 3：未来マップ 第 1 版



図 4：未来マップ 第 2 版

### 3. マップの内容

表面は、1版、2版で植田駅前の飲食店紹介し、おすすめの一品やお店の基本情報を載せた。日頃、食事などに出かける際に利用してもらい、新たなお店に足を運んでもらうきっかけを作り出す。

裏面は復興が進んでいる事を実感してもらうため、1版に震災当時の状況、2版に2018年2月の様子を掲載した。そして、私たちが携わってきた復興活動を紹介し、復興活動に興味を持ってもらうきっかけを作り出す。

### ボランティア活動への参加

#### ☆ 植樹祭

2018年度に福島県いわき市岩間町の防災緑地が完成する予定であり、2014年から計5回行われてきた。苗木採取で集めた苗木やドングリを、地元の方や企業の協力を得て、育てていただき、それらを植樹するイベントである。これまで参加者の方々と採取してきたドングリや苗木を植樹し、防災緑地の計画が着々と進んでいるのを実感した。当日は台風の影響を受け悪天候の中、苦労したが地元の方と交流することができ、今後も復興支援活動に携わっていきたく感じた。



写真 4：植樹祭集合写真



写真 5 植樹の様子



## ☆ なこそ希望プロジェクト 2018 ～8 年目の 3.11～

3 月 11 日に実施された東日本大震災追悼イベントにボランティアとして参加した。このイベントは、東日本大震災により大きな被害を受けた小浜海岸で実施され、震災により亡くなられた方への追悼と、これからの生活に対して希望を持てるようにという願いが込められている。イベントでは、人形浄瑠璃・韓国伝統芸能・和太鼓・篠笛の舞台・フラッシュモブなどが行われた。そして震災が発生した 14 時 46 分に黙祷を捧げ、水供養を行った。イベントの最後には、希望の花火が打ち上げられた。

私たちは、前日 (3 月 10 日) から関わり、カレーの仕込みや阿波踊りフラッシュモブの練習を行った。当日 (3 月 11 日) は、会場の設営などを行った。夜には地元の方と共に作ったキャンドルとトゥインクルハートの点火、点灯のお手伝いを行った。

震災から 7 年が経ち、徐々に復興の形が見えてきた中で、このようなイベントを実施することによって、被災された方の気持ちが少しでも和らいでいくことを感じた。だからこそ、ソフト面での震災復興が必要であると改めて実感した。また、自分たちも、震災復興を継続して行っている者として、多くの被害を招いた震災の教訓は語り継いでいくべきであると感じた。今回の追悼イベントを通じて、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災での大きな被害を念頭に置き、今後も勿来に協力していきたい。



写真 6 : キャンドル作成



写真 7 : 準備手伝い



写真 8 : トウインクルハート

## 1 年間の成果まとめ、今後の活動計画など

### ☆ 今年度の成果のまとめ

#### ① 2 つのコミュニティ形成イベントの実施

##### 1. 「くぼたんけん」

2017 年度のかぼたんけんは、スタッフを合わせて 57 名 (内 8 名が双葉町出身) が参加した。2016 年度に挙げた課題を見直し、課題解決するために「まち歩き中に交流が生まれるようヒント頼りにまちを歩く探検型」「商店会の多くの方々にご協力いただく地域連携型」へと改善した。

##### 2. 「復興応援バスツアー」

復興応援バスツアーは、スタッフ合わせて 20 名 (内 10 名が復興公営住宅入居予定者) が参加した。バスツアーを通じて、普段あまり家を出ることのない高齢者にも参加していただくことができ、かるとや車内での会話などから「交流」と「生活拠点を知れる」イベントになったと感じる。

◎ 10 月 1 日に実施した「くぼたんけん」と、1 月 21 日に実施した「復興応援バスツアー」を合わせて参加者の総数は 77 人、参加者同士の交流が深まったと回答した人が 80% を超えた。

#### ② 地元に根付くマップの作成

##### 1. 「くぼたお散歩マップ」の完成

くぼたお散歩マップは、合計 3000 枚程度作成し、「各戸配布・復興公営住宅」に配布を行った。



## 2. 「未来マップ第 1 版」の完成

未来マップは、第 1 版・第 2 版と合わせて、2000 枚作成し、第 1 版は「紹介店舗 9 店舗・銀行 6 店舗・植田商店会に所属している店舗 76 店舗・双葉町役場・商工会議所・勿来支所」に配布を行った。

## ③ 情報発信のやり方改革

Twitter と Facebook のフォロワーが徐々に増える中で、Instagram を始めた。Instagram では、73 人のフォロワーと投稿数 12 個を達成した。HP も逐一更新し、人物プロフィールなど作成した。

## ☆ 来年度の事業計画

### ① 勿来・双葉共生デザイン

2015 年度から行っている勿来・双葉の交流イベントを継続していく。今年度は入居前の交流を軸としていたが、来年度は復興公営住宅入居後のコミュニティ形成を支援していき、自治体形成に向けた取り組みを「NPO 法人みんぷく」とともに行っていく。

### ② 植田商店会との連携

#### 1. 植田商店会 復興まちづくり構想計画

昨年度未来マップを作成する中で、植田商店会が「笑顔のまち うえだ復興プロジェクト」を立ち上げた。この事業の中で学生と商店会が連携で、植田商店会の現状を把握し、将来的なビジョンの提案までを行う。

#### 2. 未来マップ今後の予定

第 3 版に関しては 2018 年 10 月に配布する計画であり、食材店をピックアップした「**食材マップ**」と「2018 年 **10 月時点の被災地の様子**」を掲載する計画を考えている。第 4 版に関しては 2019 年 2 月に配布する計画であり、植田の職人を紹介した「**マイスターマップ**」と「**植田のまちと被災地した地区の将来的なビジョン**」を掲載する計画を考えている。